

第 15 回手話通訳技能認定試験（実技）

聞き取り通訳試験（問題）

第 1 問 テーマ「声を掛け合う」

先日、仕事で、ある地方都市に出かけた。

夜も 8 時をまわっていたと思う。予約した今夜の宿を探し、すっかり暗くなった住宅街を迷いながら歩いていたら、自転車に乗った小学校 3 年生位の女の子が向こうからやってきた。自宅に急いでいるのだろうか、道は暗いし、危ないなあと思っていたら、すれ違いざまに「こんばんは」と女の子が私に声を掛けて、走り抜けて行った。慌てて、振り返りながら私は「こんばんはー。気を付けてねー」と、ことばを返した。「ありがとうございます」という声を残して、小さな影は、路地に消えた。

大きな重いかばんを、それも両肩に背負い、きょろきょろしながら歩いていた私は、不審者に見られたりはしなかっただろうかと思いながら、初めて訪れたこの町の教育の良さを感じていた。

「見知らぬ人には近づかないように」「見知らぬ人に声を掛けられても知らぬ顔をしていなさい」と、世の大人たちは子どもに言って聞かせる。しかし、この町の人たちは、「だれにでも声をかけるように」と教えているようなのだ。

そういえば、先程、駅から乗った乗り合いバスでも、乗客の皆が、バスを降りる時に、子どもが運転手に「ありがとう」、大人も「ありがとうございました」と声を掛けて、降車していたことを思い出した。見ていて、とてもすがすがしく感じた私は、バスを降りる時に、慣れない口調で、運転手に礼を述べてみた。生まれて初めての経験。運転手の笑顔が目に残っている。

見上げれば、夜空に、満天の星。南の空には、ひときわ明るく、この夏 6 万年振りに地球に大接近したという火星が輝いていた。

第 2 問 テーマ「幾つになっても人間は向上する」

私たちの記憶力は 25 歳あたりをピークとし、その後何も訓練しないと低下していき、80 歳位にはゼロに近くなるとされています。

ところが、かのハーバード大学医学部で信じられないような研究結果が発表されました。

「40 歳から 60 歳の間にあらためて勉強し、それを続けていると、いったん下がりがかけた曲線がもう一度上昇し、80 歳の時には 25 歳の時よりもさらに上に位置するようになる」というグラフが示されたのです。

91 歳の女性がハーバード大学工学部建築学科に入学。40 代半ばから勉強をやり直して、なんと 45 年間かかって最難関を突破。

日本では、72 歳でご主人を亡くされた吉田^{よしだ}そのえさん。その時できれば一度はやりたかった英語の A B C を習い始めて、81 歳で吉田英語塾を開設。95 歳にして自ら高校生までを教えたという。

60 歳ではり・きゅう^{しんきゅう}の学校を卒業された柴崎保三^{しばさきやすぞう}さん。その時に 2 千年以上も前の中国の針灸の医学書が、そのあまりの難しさに日本でだれも翻訳していないことを知り、中国語の初歩から勉強し、25 年間かけて翻訳したという。

新聞やテレビなどでこんなニュースを目の当たりにすると何やら勇気づけられてくる。

「もう年です」の口癖をやめて「まだ幾つです」の思いで自分の潜在能力に挑戦していきたいものです。

第15回手話通訳技能認定試験（実技）

読み取り通訳試験（手話表現の要約）

筆記通訳 テーマ「ろう者としての私」

私は、厳しい口話教育を受けてきました。自分も頑張ったので、口話もわかります。聞こえない人の手話は、自分とは無縁と思っていました。

その後、聞こえない彼と結婚して、聞こえない子どもが生まれました。

ある時、夫と手話で話をしているのを、子どもが見ながら、手を動かすのです。感動しました。

この子が大きくなった時に、ろう者としての誇りをもった人になって欲しいと思いました。ろう者としての私に誇りを感じています。

口頭通訳 テーマ「仕事の辛さを乗り越えて」

ろう学校高等部を卒業して、理容店で、見習いとして働きました。いろいろな苦しみがありました。

先生から、厳しく指導を受けて、怪我をすることもありました。

やがて、九州での大会に参加しました。

聞こえる人ばかりの中で頑張り、三位に入賞しました。

先生は、大変喜んでくださり、会場にいた人達も、拍手をしてくれました。